

地域資源としての「からむし（和苧）」の啓発活動と産業創出へ向けた検討

新潟県からむしネットワーク・代表・村山 好明
まちづくりユニット ドーヴ（doobu）・代表・永野 聡

1. はじめに

1.1 背景と目的

「からむし（和苧）」は、麻の一種であり、織物の一大産地であった十日町市において、縁のある素材であった事が近年判明（再認識）された。毎年冬期になると深い雪に閉ざされるこの地域では、古くから農閑期の内職として織物産業が発展してきた。なかでも 朝鮮半島から伝来したと言われる「からむし（和苧）」は、上杉謙信公が産業化し、京都への輸出品として莫大な財を成したと言われているほど、この地に馴染み深い。

このような歴史的事象を踏まえ、地域資源に関する地域内（地域外も含む）の人々の関心を高める場の提供と、地域資源に現代的な感覚（感性）を取り入れ新しい形での復興（賦活）する活動の意義は大きいと捉えている。それは、地域固有の文脈（歴史・文化）に地域住民が直接触れる事に繋がり、少子高齢化・過疎化の進む中山間地域の地域活性化（まちおこし）に関する対策の一助になることを期待し、本事業を実施するに至った。

1.2 十日町市伊達地区・水沢地区（図1）

十日町市の中心部から南方 4～5km に位置したところに本事業の対象地域である伊達地区・水沢地区がある。地形的特徴としては、河岸段丘の中腹（魚沼丘陵と信濃川の狭間）にあり、豊かな農業空間が広がっている。最寄りの駅は JR 飯山線の土市駅、関越自動車の道塩沢石打 IC から車で 30 分のエリアである。



図1:事業対象地域（水沢地区・伊達地区）の特徴

2. 事業概要と特徴

2.1 「からむし（和苧）」の啓発活動

地域資源である「からむし（和苧）」の啓発活動として、地域住民へのワークショップ（「からむし染めワークショップ」）を開催する。具体的には、十日町市の水沢地区・伊達地区に在住する小中学生（保護者の参加も可）を対象として、地域学習（地元学）の場を提供する。

また、「からむし（和苧）」に関する理解を深めるため、十日町市博物館や十日町情報館にて史料調査を行う。

そして、関西地域在住の染色家を講師として招聘し、「からむし染め（和苧）」の染め技法の研究開発を行う。

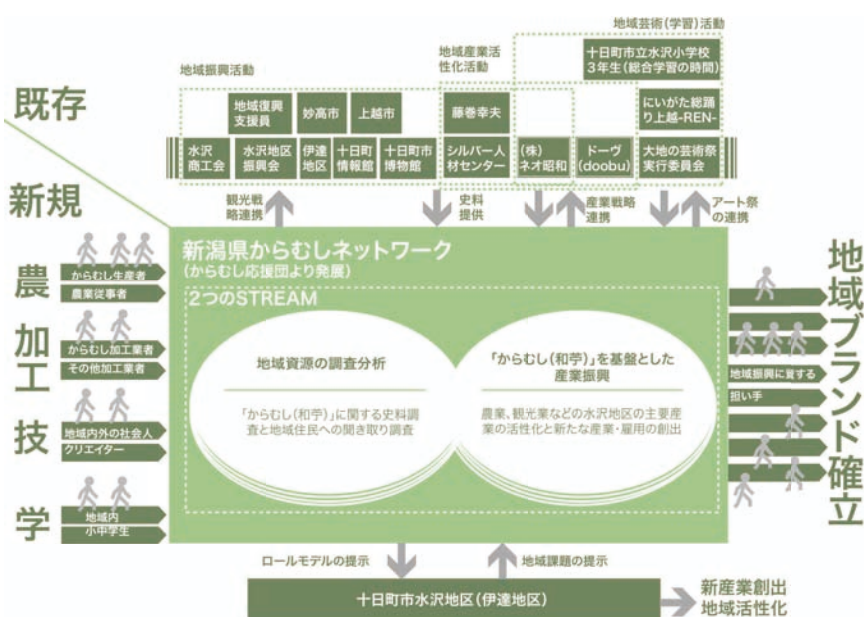
2.2 「からむし（和苧）」の地域産業としての検討

地域産業の創出に向けた検討に関しては、地域の商工会と連携し活動を展開する。また、十日町市と連携し、地域ブランディングの創出へ向けた活動の展開を模索する。

そして、まちづくりユニット ドーヴ(doobu)は、「大地の芸術祭越後妻有アートトリ



□□ □□□p□□□c□□r□□□□□□ 6□
□□□□□7□□□□□□ □

[illegible]

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ p □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

□□□6 □□□□□□7 □□□□□□□□□□□3 □□□3 □□□□□e
 □□r □□4 □□□□□□□□ □□: □□5 □
 □□□□□□□□□□□□□□□□R □□□□□
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□

開催概要：「からむし（和苧）」に関して、都内の人々に啓発する活動の一環として、ギャラリーを借りた企画展（既存商品の展示（一部販売））を開催した。当日は多くの地域住民に来場してもらう事が出来た。

・「からむし（和苧）」に関する史料調査（写真3）と現地調査

開催日時：5月3日（土）～4日（日）

開催場所：十日町市博物館、十日町情報館、十日町市伊達地区

開催概要：博物館の企画展である「からむし（和苧）」の展示を見学し、博物館の職員との意見交換を行った。その後「からむし（和苧）」に関する栽培地（伊達地区内）の現地踏査を行った。

・「からむし（和苧）」に関する地域住民へのヒアリング調査

開催日時：5月31日（日）～6月1日（日）

開催場所：十日町伊達地区

開催概要：伊達地区の「つつじ原祭り」に参加した（都市農村交流の一環として、東京より5名の学生が参加した）。地域資源である「からむし（和苧）」に関して、地域住民にヒアリングを行った。

・第2回「からむし（和苧）」に関する地域外での啓発活動

開催日時：7月10日（木）～12日（土）

開催場所：東京都三鷹市ギャラリー（飛高堂）

開催概要：4月に開催した「からむし（和苧）」の企画展が好評であったため、第二回目の企画展を開催した。当日は多くの人々に来場してもらう事が出来た。

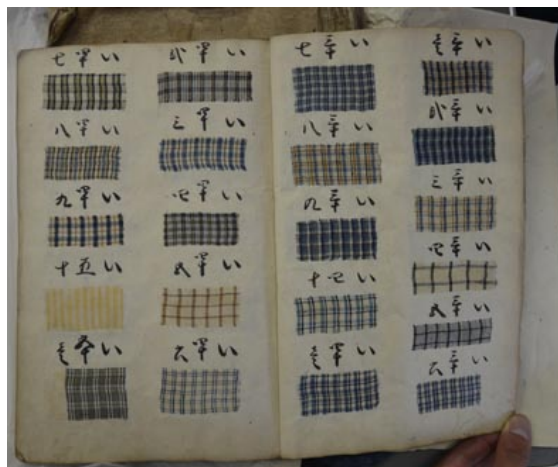


写真3:奥女中の着物柄見本,
所蔵：十日町市博物館

3. 2 地域資源としての「からむし（和苧）」を再発見するワークショップを開催《2014年8月～9月》

・第1回ワークショップ（プレ）（写真4）

開催日時：8月24日（日） 13:00～17:00

開催場所：新潟県十日町市水沢公民館

参加人数：8人（スタッフ4人、東京からの大学院生2人、水沢地域在住小中学生2人、地域住民3人、講師（染織家）1人）

開催概要：水沢地区の小中学生を対象とした「地域学習に関するワークショップ・からむし染めワークショップ」を開催するにあたり、そのプログラム編成に関する現地検討会（プレワークショップ）を実施した。当日は、様々な新しい染め技法（草木染め、藍染め、マール染め、タイダイ染め、等々）を試行した。



写真4:第1回ワークショップ（プレ）風景

・第2回ワークショップ（写真:5）

開催日時：9月21日（日） 13:00～15:00

開催場所：新潟県十日町市伊達公会堂

参加人数：26人（スタッフ5人、東京からの大学院生5人、水沢地域在住小中学生8人、地域住民7人、講師（染織家）1人）

開催概要：水沢地区の小中学生を対象とした「地域学習に関するワークショップ・からむし染めワークショップ」を開催した。当日は、染め技法である藍染め、マーブル染め、タイダイ染めを試行した。親子3代での参加もみられ、地域での広がりを感じた。



写真 5: 第2回ワークショップ風景

3.3 「からむし（和苧）」の地域産業としての展開を検討（地域ブランディング会議、プロダクトデザイン検討）《2014年10月～2015年3月》

・第3回ワークショップ

開催日時：2月7日（土） 14:00～18:00

開催場所：東京都杉並区某集会所

参加人数：8人（スタッフ4人、都内在住小学生2人、都内在住大学生1人、講師（染織家）1人）

開催概要：当初予定していた活動拠点である十日町市での開催が、風土的条件から発生する物理的制約および地域社会との手続き上の制約によって実行できなかった。その上で、次年度以降に十日町市現地での開催を見据え、都内に住む小学生および地域活性化に興味を持つ大学生にむけて、マーブル染めと「からむし（和苧）」染めの指導と実務を行い、染めの楽しさと我々ドーヴの活動の告知をした。その中で、小中学生に教える上での留意点の確認、ならびに他のアクターとして大学生の勧誘を行えたことが成果としてあげられ、次回以降の活動に活かす。

詳細内容：

JR 中央線阿佐ヶ谷駅近傍に位置する集会所において、団体活動の一環としてからむしや染め技法の指導ならびにその実践を参加者である小学生と大学生とともに行った。

（写真:6）

麻であるからむしの存在そのものを知らなかった参加者や、織物の材料以外にも染料として使える部分（葉）があること、絞り染めの方法、自身が作成した模様を染めるマーブル染めの方法について学習した後、みな各々に染め作業を実施した。

その中で、絞り方にはどのような技術が必要なのか、染め上がりを想定したデザイン検討など、参加者への対応をするスタッフ個々の指導能力の向上にも繋がった。（写真:7）

結果として、マーブル染め7枚ならびに絞り染め3枚をワークショップにて作成した。また、参加した大学生に関しては今後の本活動に対する積極的な参加の意志がみられた。



写真 6:小学生にマール染めを教える
スタッフ

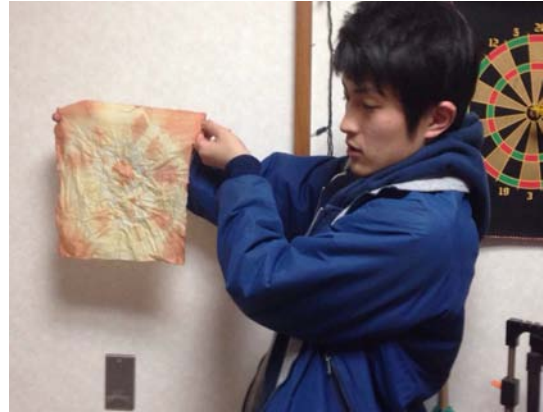


写真 7: 絞り染めの説明を行う
スタッフ

・第4回ワークショップ

開催日時：3月8日（土） 10：30～15：30

開催場所：東京都新宿区某集会所

参加人数：7人（スタッフ6人、講師（染織家）1人）

開催概要：からむしの地域ブランディングに向け、若者達にも親しまれるプロダクトデザインを検討するため、多色染めならびに布以外の材質に対する染め技法の向上を講師の指導のもと試行した。

①詳細内容：10月より協議を重ねた「地域ブランディング会議」を通して、従来では高齢世代にしか認知されていない「からむし（和苧）」商品を、デザインの力を以って若者やその他世代の人たちへ普及することができないかと施策した。

このため、かねてより「からむし染めワークショップ」の運営等で協働している染織家・幾島淳夫氏を講師として招聘し、さらなるデザインに応用できる染め技法をスタッフ内で共有するべくワークショップを開催した。

具体的には、「からむし（和苧）」で作られた布に「からむし（和苧）」で染める「一色染」から、染料そのものを変えて一枚の布に多色を表出させる「多色染」の実践を行った。これに加えて、ヌメ革への染色を試験的に実施した。（写真:8）

この一連の過程の中で、多様な技術を同時並行で行う上での手順の最適化に関しても指導を仰ぎ、大量生産を行う手法に関して習得ができた。

結果として、ヌメ革に関しては鮮やかな彩色が出たため、これを元に、若者やその他世代の人たちへ向けたプロダクトとして、財布や小物（名刺入れ、巾着袋、等）の作成に関して次年度以降展開していく可能性を見出すことができた。

さらに、多色染めに関しても複雑な表情を持った染め作品を仕上げることができたため、デザイン力そのものの向上にも繋がった。（写真:9）



写真 8:実際に出来た作品群



写真 9:多様な染技術で作り上げた成果物

4. まとめ（地域への波及効果）

東京都心と中山間地域（十日町市水沢地区）の継続的な都市間交流（人的交流）が創出された。また、この一連の活動に関して、地域住民の期待は大きくなってきている事を実感できた。他方、地域の小中学生を対象としたワークショップを通して、「からむし（和苧）」という地域固有の資源を広く地域へ浸透させる事ができた。「からむし（和苧）」の地域ブランディング化に際しては、協力者・協力団体は多く存在し、地域に根ざした地域産業の創出する体制が整いつつある。

5. 今後の展望

5. 1 活動の方向性

今後も地域資源である「からむし（和苧）」に関する継続した啓発活動を行うため、地域産業創出の萌芽的活動を加速させ、活動の資金を確保する事を短期的な目標としている。そのためにもプロダクトの研究開発を早急に進める事が必要である。プロダクトに関するデザインやプランニングに関しては、事前のマーケティング調査を検討し、ターゲット層の明確化を図りたい。

また、「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ 2015」が今夏開催される。十日町市水沢地域でも多くの作品が展開される予定となっており、地域外の多くの人々がこの水沢地区・伊達地区にも訪れる。そこで、その人々に対して「からむし（和苧）」に関する理解をより深めてもらう機会を創出したい。交流人口が飛躍的に増加するこの時期を好機と捉え、事前の戦略会議を関係地域住民と定期的に開催していきたい。

5. 2 課題と展望

地域資源である「からむし（和苧）」が地域活性化の一助となるまで、継続した活動を行う事が大きな課題として上げられる。地域活性化を実現するためにも、6次産業化も念頭においた地域ブランドの確立が必要であると捉えている。地域ブランド化に際しては、関係機関（十日町市、商工会）との協働をより一層図っていきたい。また、若者（特に小中高生）に対して「からむし（和苧）」の理解を深める活動をより広く展開していきたい。その理由は、将来的な地域の担い手の育成に結びつけていきたいからである。中山間地域では定住人口の促進という定常的な課題を抱えている。その解決には、地域に安心して長く住み続けられるだけの十分な職業の確保が最優先課題であると理解している。そのためにも地域産業としての「からむし（和苧）」の幅広い展開を今後も模索していきたい。